

4325

萬國新聞

明治二年三月下旬

英國教師ベリリー編
千八百六十九年

翻不
刻許

第十六集

西垣文庫
文庫 10
7364

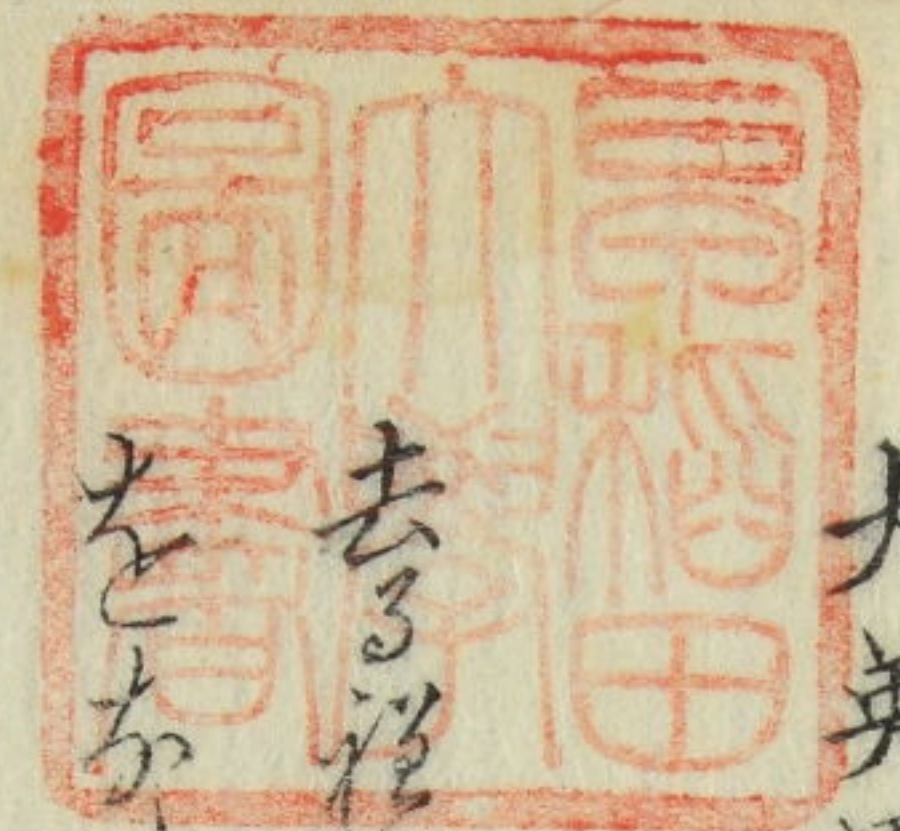


特 文庫10
7364

大英國史

西垣文庫

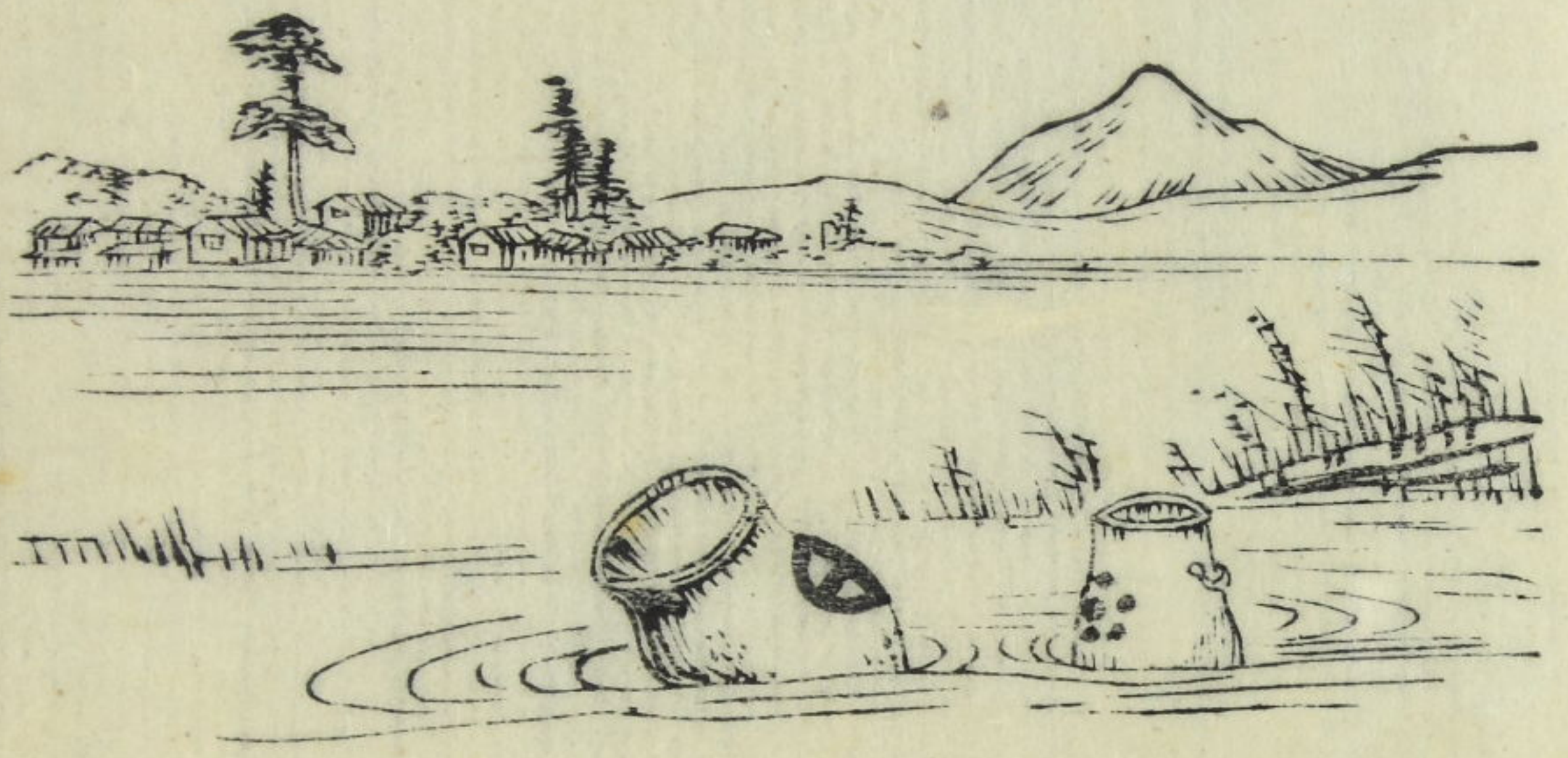
第十三篇 西曆千六十六年 我治曆二年



去る程ふ「ハロルド」は南海岸まで「ウィルム」を防ぐ手当
をたかしくする「トステ」上陸せしむるを許しければ取
物も取敢む北をきくして欠舟先「トステ」に和を入られ
ども侵入せむべきはとて一戦ふ「トステ」は「ルウイ」王を
打取りあまの法「ルウイ」勢を斬屠り我の勝利は終
りけれどもあまの力も手傷を負われ暫く「ルウイ」は
休息せしむる忽ち一騎は早馬も遅ゆるむるふ

大英國史 十六集 二

才を事あり「ワイルレム」巴「ソークス」上陸し、その道の
 村町を押掠せりと、進進あり嗚呼哀ひ哉「イギリス」軍艦
 法「ソークス」沖に固め、若くは持場あり、若くは「ワ
 ル」争う上陸せんを、然ん天「バロルド」を助けざる、と
 兵糧乏乏し、とさふあり、軍艦は持場を、を以て港に趣
 し、折しも北風忽ち、ふたりを、折れば、はきを待、ワイルレムに、速
 「フランス」を出帆し、容易は、上陸する時、バロルド「ワイルレム」は、
 進を、先人数を、調ふ、敵の三分一、おまた、おれ、を、
 おあふ、され、速に、ソークス、さ、を、急ぎ、ける。



両箇は硝子

器の噺

今、両箇は硝子器河中
 浮び流るあり、
 不幸、中、突当り時
 互に破裂し、忽ち
 水底に沈む、至るべし
 故に遠く、
 激觸を防ぎ、
 雨に、

其流もを同ふやそのよきもの此毒の威權
あまふ人此理を了解し其意をを用ひ
禍をを生ずる事とあるべし若一たび
争心をおこし其時に此硝子銃器は相觸
りての如くあるべし

萬國新聞略

英吉利兵船「マドラ」三月八日
三月八日馬横濱に入津し
正月十六日付「ロンドン」の電報を傳信機を
たる二月七日は新報を送り来るなり

英吉利國

外國事務執政「カラレンド」に支那の使節「ホル
リングハム」と心を合せ歐羅巴并東域の交際
に付不容易企を起さんとす其事柄ハ未だ分
明ならずれども去秋支那及び「ホルモ」島
我國人支那政府へ厳しくを合一時穩うとあり
りれどもその後全く静謐なり然るも再
び此事件に付議論を起さんとす已まの内應
と得んべし「カラレンド」を引入れんとす

此ボルリニグハーハ元米國人として支那北
京在苗の全權公使ありしが當今支那政府の抜
擢を受け歐羅巴各國の使節としてくるを
あり

「アエウニエ」二逆黨のの叛逆を謀りしもの八
十一人は是迄獄中より更に政府より非常の
仁政を施し其中四十九人を赦せり其餘三十二
人の首謀あり故若放赦せを再び奸謀を成さべ
しとの見込をして於赦さるるなり

一國中の大商戸集議して生糸社中ニを取り建業
樹の生ずる國々へハ全く出張所を取り建業卵
生育法製糸法その外全く精製を加へ最上の生
糸を得んとすの企を起さる尤も此事は就てハ其
國々の政府へ「ミニスト」を以てを合を遂げ普
く世界中よりの事を行はるるんとを若し日本
に於てもよりの商戸社中に加りて尽力する人
あつたかまらば大いなる富を成さるべし

佛蘭西國

第十五集より出き「トルコ」と「ギリシヤ」の争論
 一因て佛國首都「パリ」に會議をす事件ハ全く
 「ギリシヤ」の答へ平穩あり一故たちまち不
 成なり
 項日本國政府より箱館浪人ニ黨與を二人
 の士官のりニ付告知を得たり此兩人ハ一体本
 國ニても術藝才智ともニ勝るもの故萬人
 の中より撰きて日本の教師ニ送り一なり然
 る不幸よりして其國乱ニ逢ひ一故旧政府

と助らんとして脱走人ニ與一たること実
 一師弟の義ニ於て忍びざるの情実より出
 一とて敢て是を譏せざれども最早新政府顯然
 一と成立せし上ハ其政府ニ向ひて執戟するの
 理決一ありなきなり故ニ速ニ脱人と絶一して本
 國へ歸ると彼等の的當の所置を以て而して名
 譽を得るに足まり若し然らざる時ハ無名ニ
 死する又ハ日本政府の亡膚とありて引くこと
 一あり一り一身の耻辱を受るのをなきは天

ひよ本國の名を穢けがさん故よあの理を弁明して
速よ歸朝さんとを欲す

著述者附曰く嚮よ帝政府よて會賊追討の
節味方ハ勿論賊徒たりと傷愴をあうむ
アアアアアアのハ彼我の差別あく療養を加
へきりりりりて寛大の法所をなうと受く
ゆへよ外國人よても全く一時の心得違ひ
より若くハ不逞のかこふひ何るとを嚴懲
あうらん

亞米利加國

嚮の新聞紙中よ英吉利と合衆國の間よ生ぜし
齟齬よ就て説——よ於一層明白よ知告せん
とを抑先年米國南北よ分を國乱なり——とき北
部よ屬をるアラバマと号をる軍艦及び四五艘
の軍艦よて南部の船を大いよ破り——とあり
——よ米人の億説よて英吉利よてひそくよ是
を助あたりといへるとより——て大いよ難事
を生ぢ——よ是ハ全く米人の阿やまちよて嚮

の獨立の棟梁内國の乱を定めて后ち英吉利へ
使節を贈り右ハ全く詐説にてさうな證とせらる
又足らばと言ひ贈せり然る又當時の棟梁
至て再び英人の内援ありしを發説せし
より甚ど面倒なまきり英吉利ありて又その是
非曲直を明白なせんと欲して當時を合中な
りらの未如何なるを著述者もいまは是を
あつて

支那國

本國政府「カルホルニヤ」と支那の間は傳信機
と建築きしとを説り是は就て國人術業よ
うして大ひある發明を得りその傳信機ハ
カルホルニヤより歐羅巴印土の地をとり
て「ホンコン」は達するあり是を「カルホルニ
ヤ」より「ホンコン」へ旅行するは太平洋を
り「サンフランシスコ」等の地を徑て「ホンコン
」は着るあり假令は旅客二人あり東京より
京師へ行くとするは袖を左右よりち一

人ハ西ニむらつて直行一人ハ東ニ向て直行
均しく京師ニ着るが如く実ニ奇なり
て且つ疑ふべきあり茲ニ於て西儒究理の説
の妄あり地球ハ圓体ニして素より平面な
らざる確證を得たり

大日本國

一銅を外國へ輸出する事は是まで日本の國
禁ありしが漸く免許をふり

一越後新瀉港新々ニ関港をありしが近國の

民甚だこれを利とせば雖然政府の命令あれ
へ敢て拒むりのありしが去る正月中百
姓二万人あど集りて信濃川を八彦山の麓ニ
切落さんとて元來新瀉の越後中の勝港な
る所のまらたく是川より諸國の産物を運び
来るがゆへあり若しこの川を股路へ替る時
よハ外國通商の場所ありざる故斯るさ
んときり然れども役人の説諭よて一時ハ止
まつたるよしその後如何ありしや未だ確

報を得た

一 軍艦七艘去三月九日東京より箱館へ向ひ
 出帆せしむるが風様如何く横濱港へ入津一
 日碇泊翌十日又當港より開帆せしむるが如何
 なるや一みや甲^{ちやうぢやう}錢船のこゝに浦賀港へ再ひ入
 津せり

一 天皇三月七日京都御發輦伊勢大廟御拜禮
 同廿八日東京御着の御宿割あり
 一 當時箱館表へ脱走人の巢穴ありしに貿易

等出来ざる故新政府よての假し運上所と青
 森よりあつた此ところより外國關係事務を取
 扱ふあり

一 外國官副知官事大隈四位米國「ユ」ヨル
 乙船よて當十一日横濱表へ着たり此公の專
 ら金銀貨幣の義し付委任とられたり
 一 政府よて東京下谷藤堂候邸内よ大病院を
 建られしにが此処よ英國醫官「ウ」リ「ス」名人を
 しと館主とせりとの人の英國よ於ても高名

ある貴人あれが英國政府より公使とあり日
 本行を命じしきりしが實は博學多才温
 順徳厚ふしきるる醫術は長し
 さればきびく外國人日本人より尊敬さ
 ると甚し既去秋自己の入費にて北越行と
 ありしその危きも顧みず戦争のありし怪我
 を得たる兵士の官軍脱走人の差別ありこれ
 を治療して人命を救ひしと其數を知らず
 此の依怙の沙汰あるが人命を救ふを以て

我志願とせり其功も因て忝くも 帝皇より
 英國の「ニス」トルと其の礼の御狀を賜りた
 り且此人日本に在留せり八年及び一
 度本國に歸りその家族友人と面會せり
 英國政府より許さるべきを日本のため少し
 も多く我醫術を施さんとして敢て其を望ま
 ず日々大病院にて數多の病者を治療し又
 治療終むば学校に出て日本の醫生を教諭し
 たり日本語を通せらればその意味を説辨する

る自在あり実よ日本よてこの人を大病院よ
在ら——むらハ凡そ地球中を探索するとも
他人を得るとの——おき日本よ於て大い
ある幸甚といらんや既よ江戸開港の時も英
國政府より此人を——して江戸コンシユルよ
命どられ——ハかの國みても尊敬せむる
おと推て知るべ——頃日我友人大病院よ行
つゝ人の面前み——とつゝる聴人をも——て
感激せ——む新聞を得たり

上州邊の清臧といへる農夫去冬盜賊のため
に拒争——して遂に鼻頭を切削き——が
大病院よきたりウイリスよ治療を請——よ
鼻骨のつられ其う——ち甚だ醜く且鼻孔より
語音洩れをて通ぜざり——があれよ治療を加
ふ——よ頬肉の皮を削てその鼻肉の不足を補
ひ造鼻せ——よ不日あ——して全く平愈——
元のどろく鼻形をあら——又言語も通——り
バかの農夫ハ深くよろこび厚くその礼を謝

一頃て帰國とく——とらんちき有体ありたれとく
治療とちがひ実とあどらくづき手術とい
らんや

詔書之寫

朕將と東臨公卿羣牧を會合——博く衆議を
謚詢——國家治安と大基を建んとく抑制度
律令ハ政治と本億兆の頼とあふ以て輕——
く定む可うとく今や公儀所法則畧既と定ると
奏と宜——く正と閑局——局中礼法を貴

び愷和を旨とく——心を公平と存——議と精
確と期——専ら

皇祖と遺典と基き人情時執の宜と適——先
後緩急の分と審と——順次と細議——以て聞セヨ
朕親——く之を裁決せん

一先頃薩長土肥四藩とく藩藉返上の建白あ
り——と今と至てハ天下の侯伯尽く奉還の
書を獻せ

御布告書寫

從來宮堂より諸國守院へ祈願所と称へ妾も
菊章の品寄附りしは儀無故次第に付嚴敷
禁止は仰出し尤も新に祈願所致し是も一切
不相成し此旨可相心得極御沙汰之事

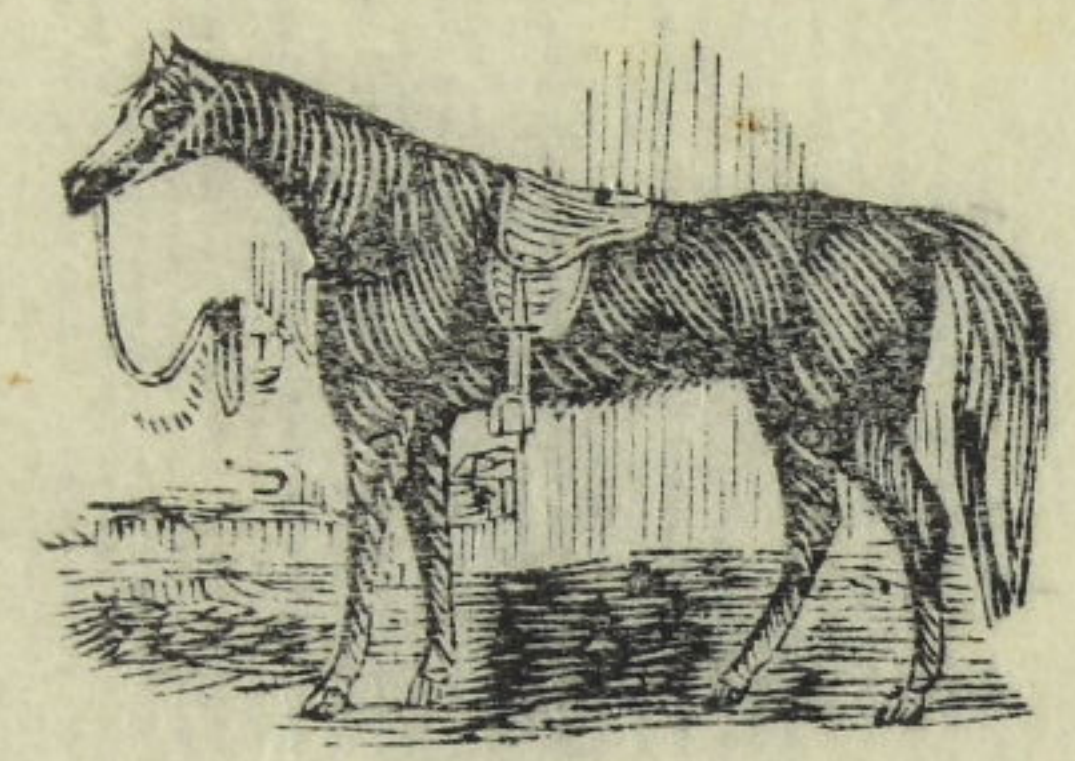
一先達て金札相場通用し命下り諸官人月給
其他政府は拂物等総て一ケ月中十日平均の
相場にて是渡方にお成し等々の相場
高下ありて一定し難く諸民難渋の趣被聞
召格別し御仁恵を以て右の通り更て御布告

よ相成候

一諸上納并御拂物等當分正金百兩に付金札
百二十兩御定之事

一此度天皇御再幸に付ては是まで衰微ある
東京を大いある繁花の地とあるべし就て
は横濱と同トく貿易盛んあるに付同所在
畠の外國人その多を見込益大なる家藏など
造り建尤も裁判所の近辺はその地面の價ひ
一坪に付十四ドルあるをよるらびて拂り

且後來日本に於て益貿易盛大なるに如く
 不足の器あらずんとて頃日^{ふら}ポースタリヤ^各国
 より横濱へ来りたる英人ホイットあるもの同所
 石川堀割りて所々々々蒸氣船を製造すか
 かり此船大槩旅客二百人なれば諸荷物等
 と乗とて當港より東京の間を往返するふと
 一日のうちに及ぶり且その片海路を西洋二
 時の間を行りたりふ是日本人のたえみ
 甚ど便利なる也



或貴客ありて最上の乗馬
 を得んとしを普く探索を
 せしと既ふ数月に至るも未
 だ是を得ず日本人此最上の
 馬を曳来らば價よのりて
 買求むべし且我方より案内
 せむべし

横濱百一番
 ベーリー

私方より蒸気船帆前船其外は好況身は世話の
仕は只今二本楫の船三艘所持仕は石数八百五十石
九百五十石に在るは世話の私方下店に在るは

横濱八十七番

ワルケル

私方より内車外車の蒸気船荷物運送船川蒸気船
汽船打立きし上の中は留るは世話の私方
のりしは且私氣先を「エーゼー」政府の船目利
致し若し用るは世話の目利の致し

横濱八十六番

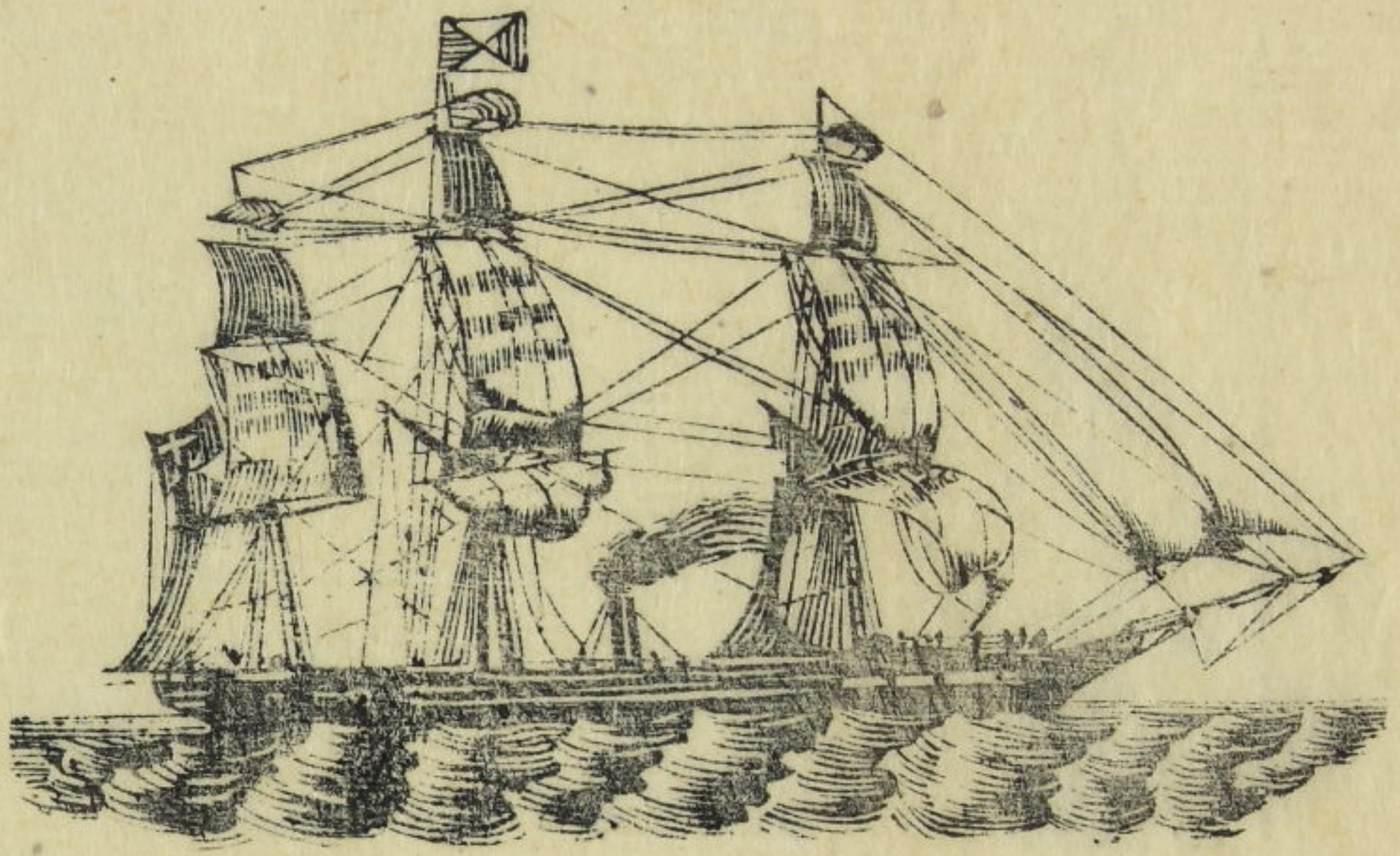
ロベルソン

私店にて大小種々の「インフィル」英火柴は世話の留
何率光来を「横濱三番」
ロベルソン

亜米利加工 季間交易見物遊歴に成度私方
は世話の仕は 横濱九十三番 ウェンリート

帆前船は蒸気船入用あり品物悉く出資は
浮山に在るは且又外國に品物種に在る尤直に商
買仕は約定のお損に遠くは何時でも引替
又ハ金子に返し中上は用は世話の仕は

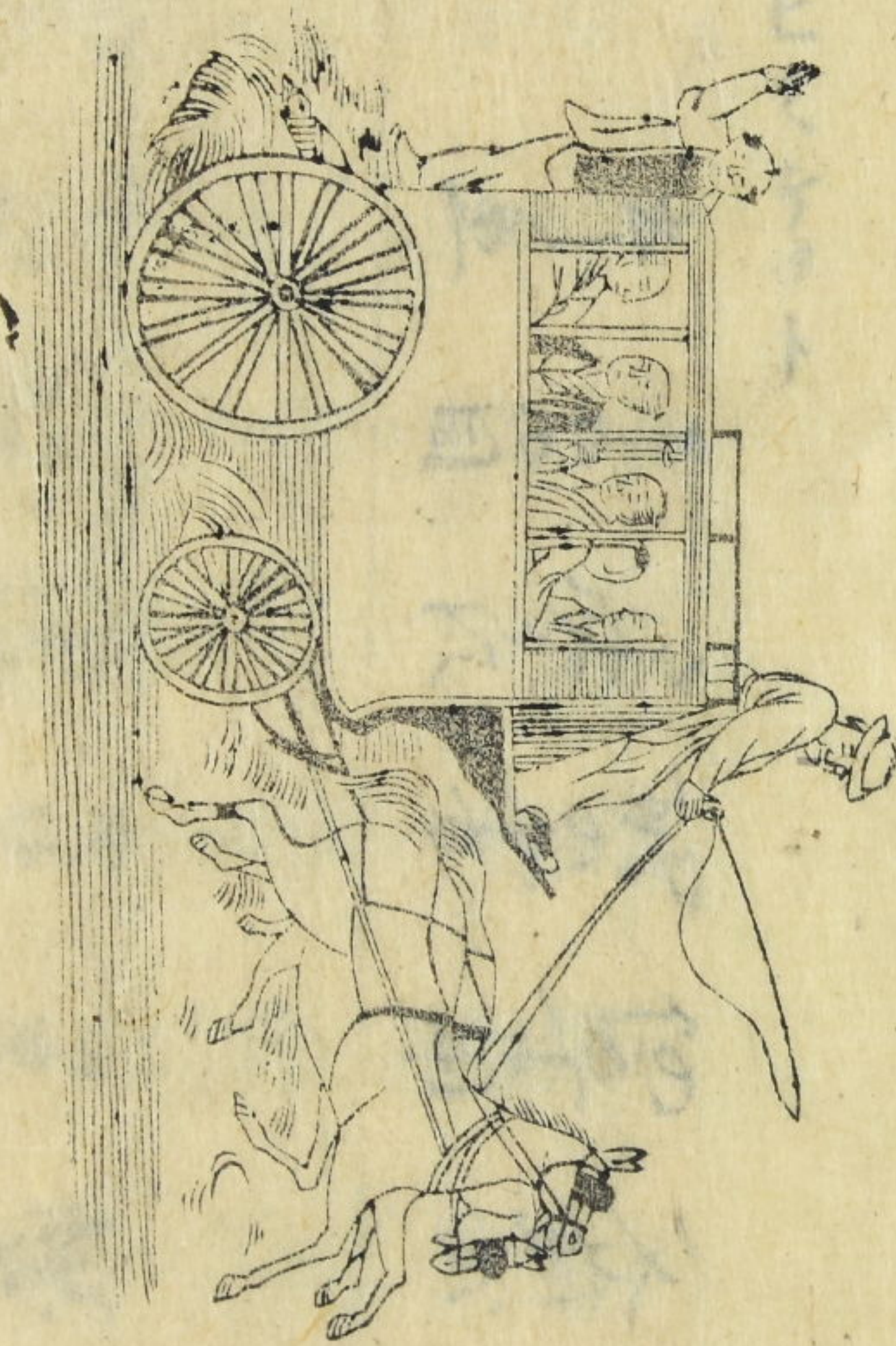
長崎大浦兵庫ケース社中



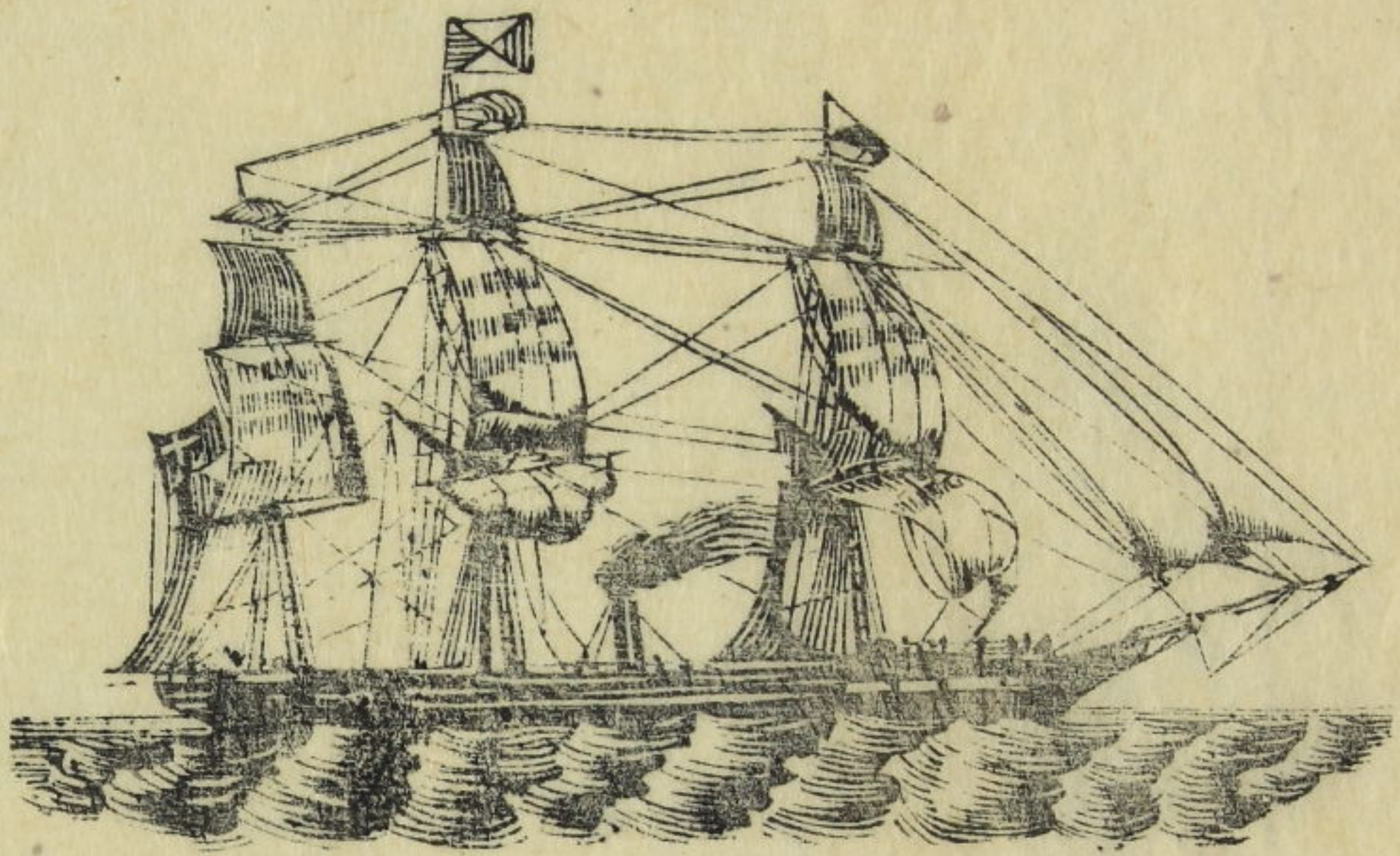
イギリス丸船横濱と
 倉庫と下仕
 百由旅行の由方と由素
 組と下夜旦と下有物とる
 七由送と中貨物と候と
 扱と下仕と仕は

横濱海岸通十五番

テルジール



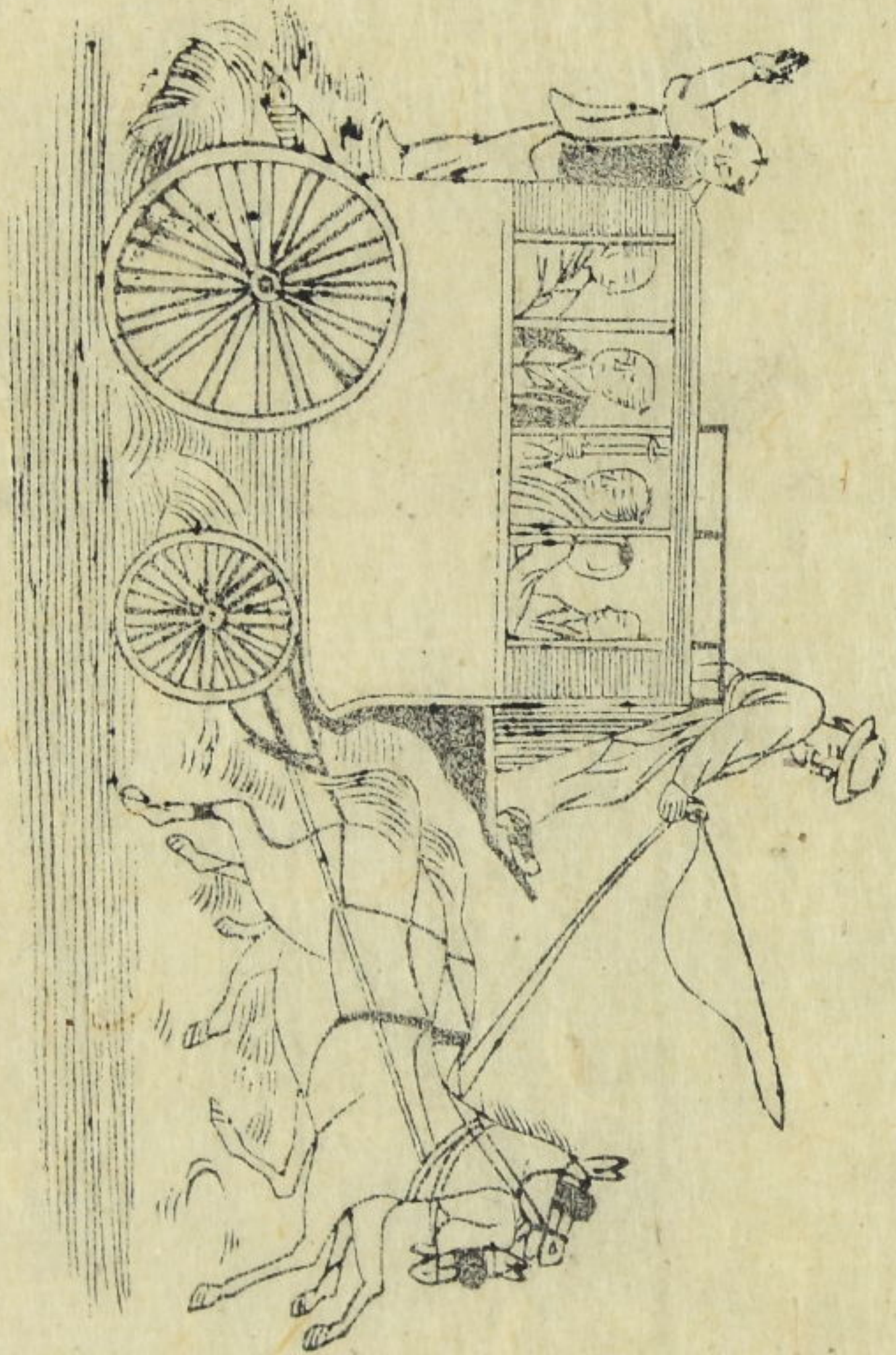
此及東京
 不聞日
 輻家絶
 止に宛て
 此所は本
 状に外は
 密に
 印
 中にも有
 横濱我



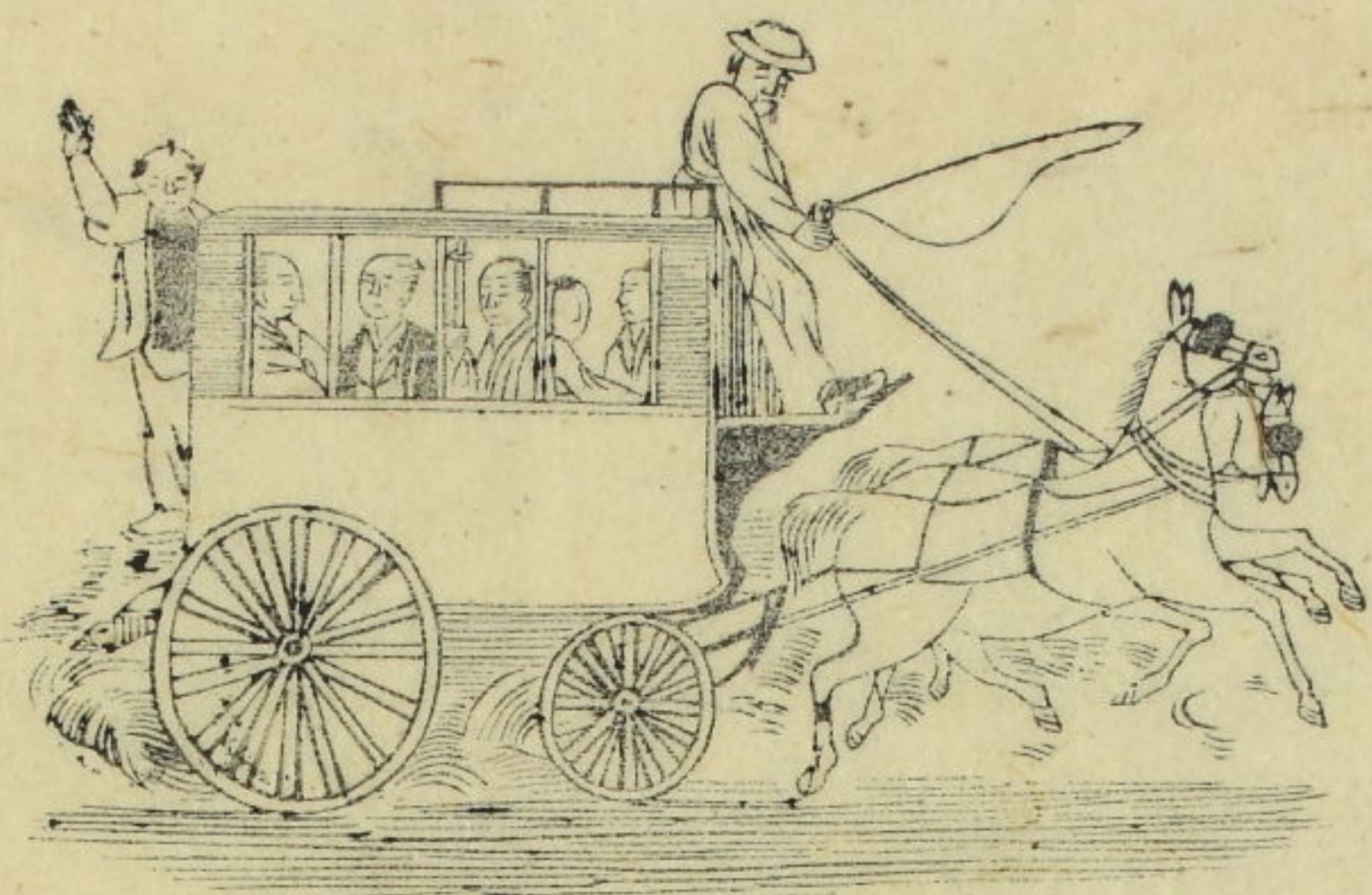
イギリス元船船横濱と
 云庫と云ふ絶上下仕
 百由縁約の市方と由糸
 組ら下及上と云物とる
 七五送下中貨物と候と
 扱下と云仕は

横濱海岸通十五番

テルビール



此及東京横濱の間車
 不閉日之糸待之糸丸時
 輛家不絶中付賃
 上之宛て申券せり申血
 此作付申血申上申
 状之外も船有車不運送仕
 出費申不心仕之何時
 印之赤地黒き馬を
 中ノ石を血見申血高
 東京築地出張所
 横濱裁判所通百二十三番



此及東京横濱の間に車馬を五建て晴雨
 不^か開^く日^びも八時と并九時集地より式輛^{しきりょう}を横濱
 二輛^{ふたりょう}宛^{むか}不^ず絶^つ出^で發^{はつ}中^{ちゆう}の賃^{ちやう}錢^{せん}後^ご極^{ごく}お勤^{ごん}也^{なり}又^{また}前^{まへ}に
 トル^{トル}レ^レ宛^宛て出^で發^{はつ}せり由^{よし}る由^{よし}旅行^{りょこう}の由^{よし}方^{かた}操^{さう}り何^{なに}卒^{そつ}業^{ぎやう}
 此^{こゝ}所^{ところ}付^つ下^{した}の海^{うみ}舟^{ふね}が上^{うへ}の英^{えい}吉^{きち}利^りとニス^ニトル所^{ところ}の書^{かき}
 状^{じやう}も外^{ほか}も私^し方^{かた}車^{くるま}の運^{うん}送^{そう}仕^しの故^{ゆゑ}右^{みぎ}の却^{かえ}限^{かぎ}必^{かならず}に
 出^い發^{はつ}中^{ちゆう}の在^あり仕^し立^たへ何^{なに}時^{とき}も出^いでる由^{よし}也^{なり}一^{ひと}の中^{ちゆう}の由^{よし}目^め
 印^{いん}と^と赤^{あか}地^ぢ、黒^{くろ}き馬^ばを濠^あ州^{しゅう}旗^{かき}を^をり出^いでる由^{よし}也^{なり}
 中^{ちゆう}の右^{みぎ}を以^{もつ}見^みる由^{よし}高^{たか}集^じの所^{ところ}下^{した}の
 東京^{とうきやう}集^じ地^ぢ出^い張^{ちやう}所^{しよ}
 横^{よこ}濱^{はま}裁^{さい}判^{ぱん}可^か通^{つう}百^{ひやく}二^に十^{じゅう}三^{さん}番^{ばん}
 ランガン

二一三



横濱の馬車馬を九健七壯
 不待之并九時、築地へ六輪
 出敷中へ得候、終極に御
 出敷せり、出敷行の出敷
 中敷有敷上へ築地利、二不
 物有車、運送往故、都限
 九時往、何時、へ、出敷一
 赤地、黒き馬を、深下、旗を
 地張所
 判通百二十三番



- 一 パン 極上品系中品
- 一 ビスケツト

右ノ品、既、海又ハ、裁、切、ホ、此、食、料、出、用、成、以
 々、米、ホ、此、如、ク、煮、糲、ノ、キ、法、有、ク、極、々、種、糸
 此、品、出、産、地、且、外、亦、硝、子、番、提、鞆、食、料、を、之
 爰、物、主、外、此、産、地、有、テ、入、用、之、方、ハ、此、等、米
 一、被、下、以

八十七番

横濱 ノウロージ

は、及南京と云、油。砂糖。酒。米。紅。茶葉。食物
系 ^{サウダ} 不ギリス焼酎。菓子。燭。シヤボシ。ロシ ^{カネ} 良。糖。下。並
を一切の上の光来求むる及云々

横濱八十一番

東安店

焰硝賣捌

私方より英國ロンドンより極製の焰硝を賣
捌中より高潔めりるもの尤も物細き物粗き
物と極味仕るものありて高潔なるもの

横濱五十八番

メクスエルソシ
マーニヨル

私方より百年来の歴史ありて殊に近年ハ
り英國の所産者には類あり殊に近年ハ
子積込め進く市用には作付小云々送
海上と煙火の風味もこのわりのや七
よりがたしく少方と核濱に移り製
致し格別味は美上なり等と書
み着板と目當り申之来このは
を願上り上

核濱九十七番

粵興

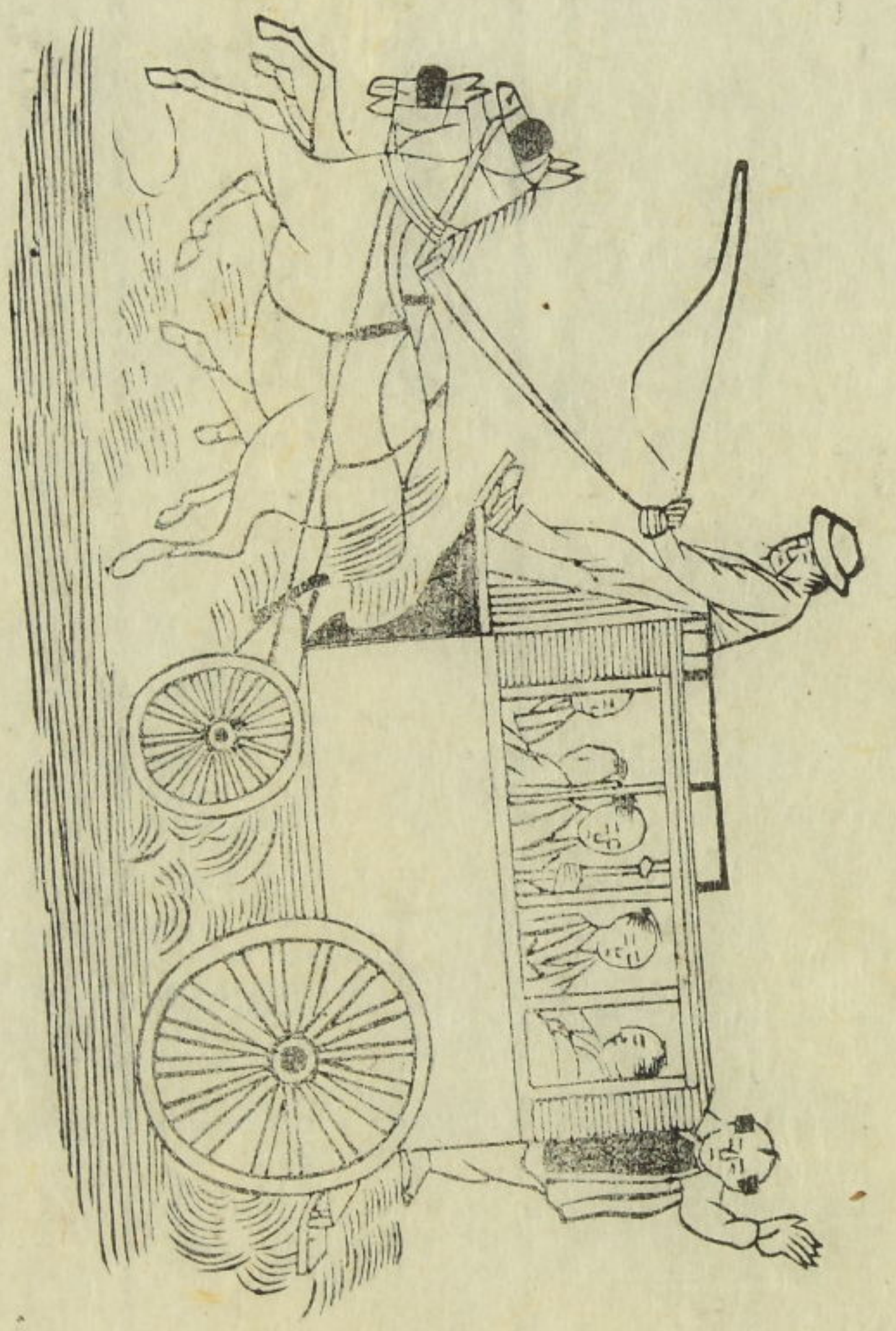
及英吉利亞墨利加より新の船来仕多
 ルリグ文法書歴史地理書地球儀地圖函
 具ユル類繪の具醫書新兵器書當時美と用者和蘭
 佛蘭西の對字書リリーチングブック文法書其
 外西洋筆墨紙地本スレート石字と書きしは
 字と云道具等私店より下直と致し上
 手書何卒序好く序方様を多少に
 揃求し下交を願多以上
 携漢本所通五千一番
 ハルトリ
 八十四番
 精宅社以

張
 日
 欲
 真
 行



細
 結
 他
 張
 日
 欲
 真
 行

及英吉利亞墨利加より新舶来仕多ス
 ルリグ文法書歴史地理書地球儀地圖西
 貝ユニオン類 繪の具醫書新兵器書當時美とて用者有 和蘭
 佛蘭西の對字書リーディングブック文法書其
 外西洋筆墨紙地本スレート石字と書きしは拭いてまた書き
 字立道具等私店々々下真之致し上
 等何卒序好く序方様を多少に不
 揃求むる交を願多以上
 接濱本町通五十一番
 ハルトリ
 八十四番
 精宅社以

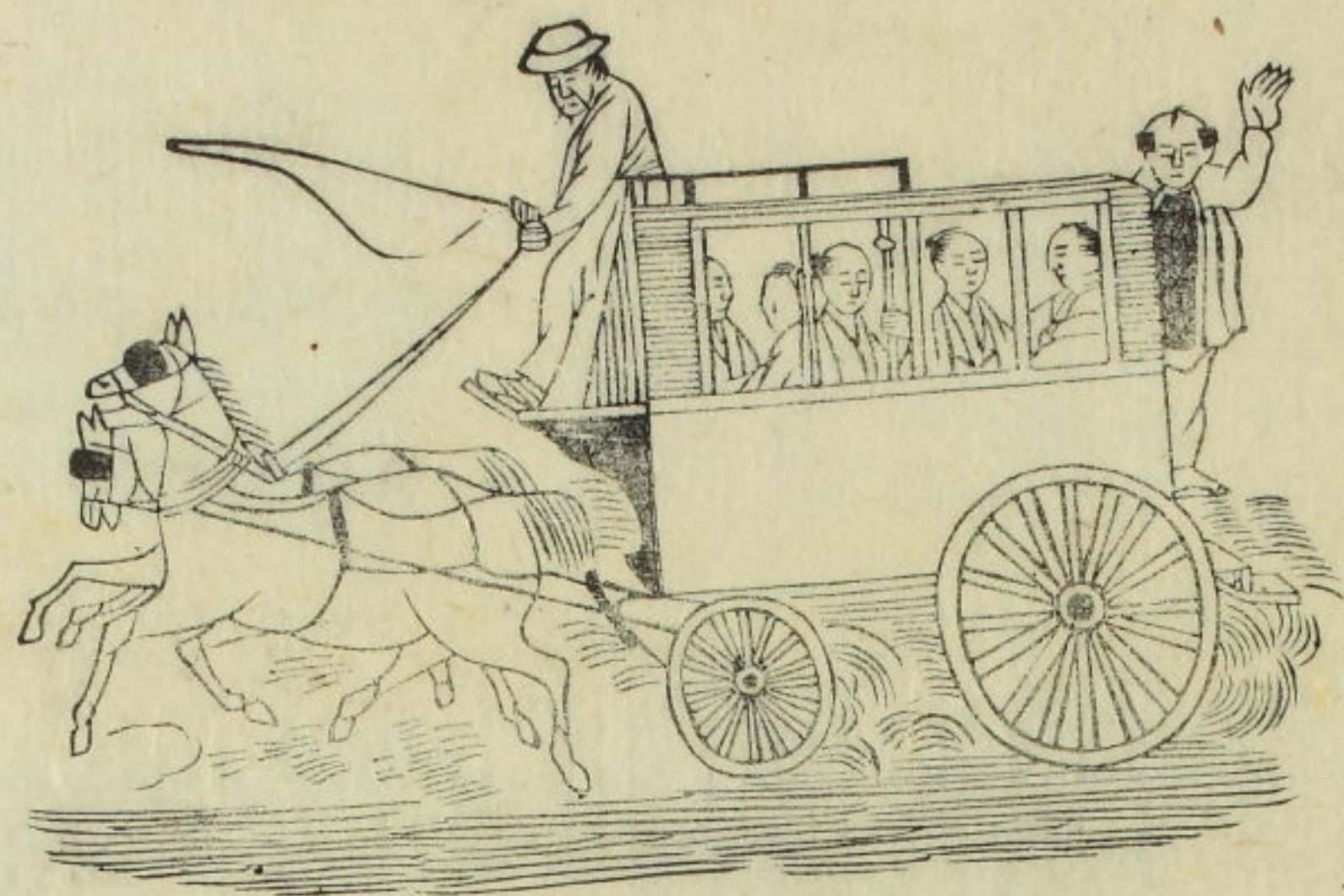


日本諸国東京横
 小松方車馬之極不
 廿年石車東京の
 次九時之時出教
 以宛に渡す晴雨を通行
 時不限心出一年自
 形を深小謀心出一年自
 江戸東京之築地
 間何年此等本之程
 横濱田橋通の百三

字其道具等和店...
 何卒好...
 願多...
 以上...
 八十四番...
 八ト二一...

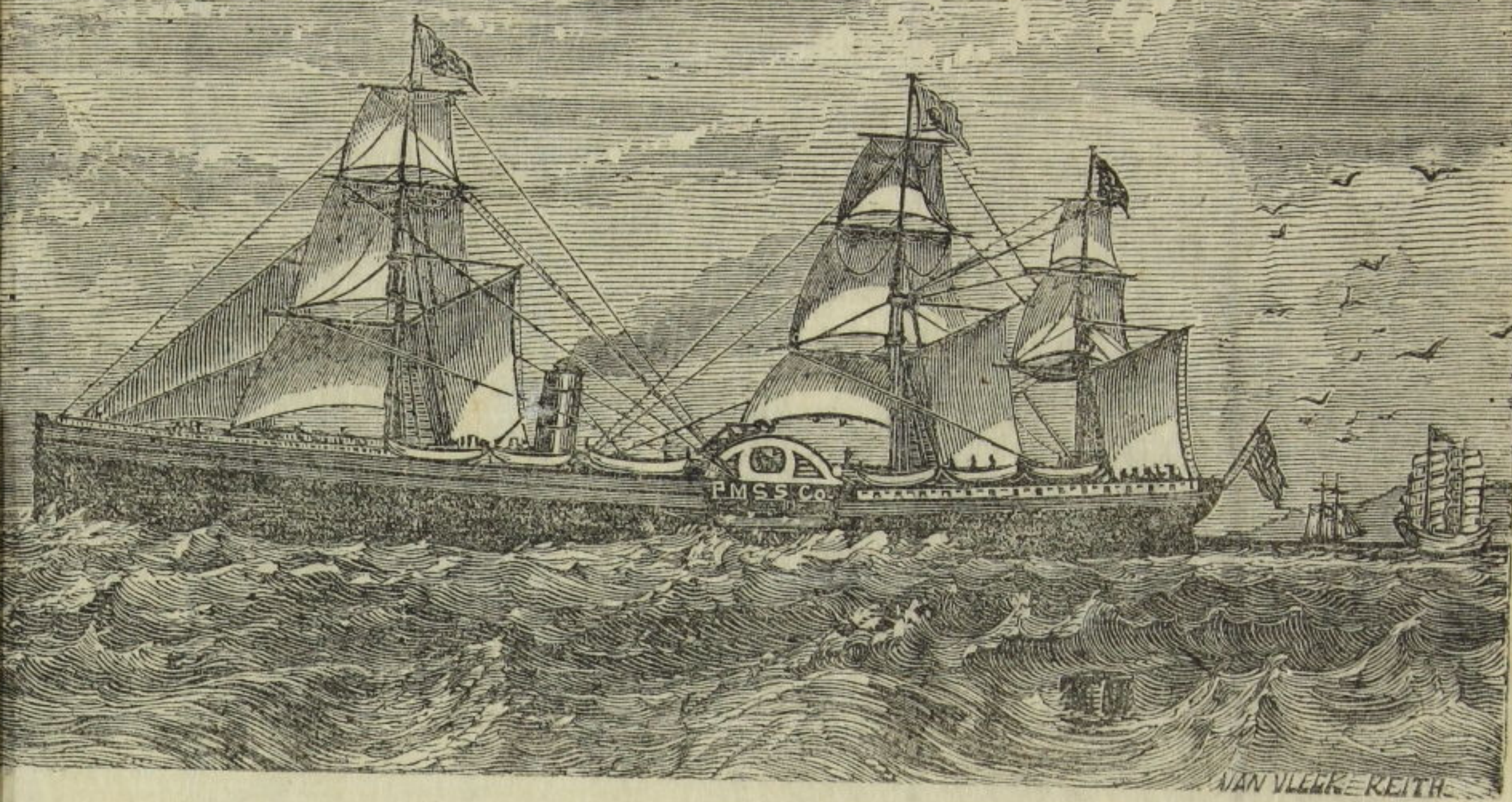


日本諸天子東京横濱間旅行
 小私方車馬之極和速引之且下真無
 世有在車東京が教又横濱が部輛自
 希九時之時出教が小賃後終兵御下止
 此宛西往小晴雨も通行休暇又往登小將老何
 時不限也一三半自印の赤地白き馬の
 形を深小旗空也一並小名在老見為西言來
 可也中東京之築地関門外出張所懸
 間河平西本之程有弘
 東京築地関門外
 横濱羽田橋通の首干三番
 三ヨクシ



日本ヨコハマの諸君子東京横濱の間旅行ヨコハマ五人
 一、私方車馬こひがたぐるまにて極はやく而神速しんそくなり且下真まことの景
 世よ右車東京より武りやう輛又横濱より武りやう輛宛日
 九時くじと二時にじ出い發はつヤリ貨りやう後ご毎まい日にち二に下くだラ
 ル宛宛西にし濱はま小晴こはる雨あめも通行つうこう休やすみ程ほど又また此こゝ社しゃ是こゝ止とどまるま何
 時かき不か限ぎんをあ一いち下くだ目め印おしのる赤あか地ち白しろき馬まの
 形かたちをそめ添そ小こ旗はたをあ一いち並なら小こ右みぎをみ見み為な言い東
 一いちのち下くだリ東京とうきょうにて築地くさじ関門せきもん外そと出張しゅちやう所しよ也なり
 間ま何なん平へいひるひる才さい程ほどをあ一いち
 東京築地関門外
 横濱前田橋通アの百二十三番
 ジョヨフジ





此度私共社中より取極めいたし毎月^{英吉世四頃}二回
 二回^{二回}より蒸気船一雙當港に到着
 いたせ又大抵二日頃ハ香港より一雙到着
 いたせ又大抵二日頃ハ香港より一雙
 及者ハサンフランシスコ^ハサンフランシスコ^ハより
 及者ハ香港より又出立つたせ又サンフランシスコ
 に出帆いたせ及今ハコスタリカ兵庫長崎香
 港に出帆いたせ及今ハコスタリカ兵庫長崎香
 港に出帆いたせ及今ハコスタリカ兵庫長崎香
 港に出帆いたせ及今ハコスタリカ兵庫長崎香

太平洋飛脚船仲間

横濱海岸通四番 フエルプス

萬國新聞紙ハ日本の諸君ハ萬國の事情を知
 志めん為ニ作まじり○日本の日々強大開き進ま速
 して當今有志の諸君万國遊歴學問する者自由
 かれるハ予等の大慶なり今乃時當りて諸君萬
 國の事情通達するハ欠一のくさるの急務也○毎
 月二三度飛脚船新聞を持来まハ直出版也○此
 新聞紙ハ諸人の報告を集めて作りハハハハハハ疑
 わしき事ありて虚実分明かゝる事ありとも予等説明
 其支能なき諸君若珍説奇談あは知せ玉○卷の終ハ問
 を設くる所諸君答あはハ百一番返却せらるる也

萬國新聞

御書物所

萬國教師ベリリー先生日本貴公子ノ英学ニ
志アル者ニ教授セント欲ス先生子弟ノ教育ニ
熟慣セリ先生英國「カンブリッジ」地ノ大学校
ニ修業シ此大学校ニテ学藝上達ノ為ニ多ク
褒賞ヲ得タリ故ニ十分ノ教授ヲ与フル可
得ナリ若シ已ラトヲ得ズニテ英國ニ趣カント欲セバ又
為ニ周旋スベシ教授料ハ多分ニ受ケズ又西洋書籍
貯持セサル者ニ別ニ料ヲ受ズニテ借シ教ユベシ

横濱

百一番

横濱本町通七十二番

ユ
—
プ

日本橋通一丁目

須原屋茂兵衛

38
! 全
手
紙